

平成 25 年 8 月 23 日

## 博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号

0827022027

氏 名

堀口 智美

論文審査員

主 査（教授）

須釜 淳子



副 査（教授）

稲垣 美智子



副 査（教授）

表 志津子



論文題名 A scale for Japanese type2 diabetes patient ability to recognize and respond to family support : during the time without serious complications（日本人 2 型糖尿病患者の家族サポートの感取・対応力尺度—重症の合併症のない時期—）

### 論文内容の要旨

本研究は、2 型糖尿病患者が家族サポートを感じ受け取る力とそれに対応する力（感取・対応力）の構成概念を明らかにし、その測定尺度を作成した。方法は、尺度開発の手順を用いた。尺度原案作成は、本研究の先行研究により質的・帰納的に得た 8 概念 38 項目とした。この原案を 6 つの病院に通院あるいは入院している 2 型糖尿病患者 211 名を対象にして、自記式質問紙法にて調査した。分析方法は、項目分析、探索的因子分析（主因子法・最尤法プロマックス回転）、信頼性の検討にクロンバック  $\alpha$  係数の算出、妥当性の検討には、因子分析にて構成概念妥当性、基準関連妥当性には家族協力実施の実態、ストレス対処能力測定尺度（SOC）を用いた。その結果、分析対象者数 175 名からのデータから、5 因子 22 項目で構成される尺度が完成した。第 1 因子は「糖尿病を持つ自分への家族からのまなざし感受力」、第 2 因子「療養生活を家族と共に歩むための相互交渉力」、第 3 因子「家族の中での糖尿病の位置づけ調整力」第 4 因子「家族から向けられる糖尿病患者としての信頼感受力」第 5 因子「療養生活に対する家族との相互尊重力」となった。回転前の累積寄与率 65.9%であった。クロンバック  $\alpha$  係数 0.928、基準関連妥当性は SOC との相関係数 0.166 と相関はなかったが、家族協力の実態得点との相関係数は 0.472 で相関を認め、本尺度は一定の信頼性と妥当性を持つ尺度として完成された。

### 審査結果の要旨

2 型糖尿病患者のサポートについて、これまでは、サポート提供者に教育・指導を実施する方法がとられてきた。本研究は、全く異なった視点で介入方法を提案した。それは、患者がサポートを感じ取り、受けたサポートに対応することを学ぶ教育方をするものであり、その着眼は独創的である。新しい介入方法につながる本研究は、糖尿病患者教育の発展に寄与する。公開審査における質疑では統計、今後の臨床応用についての質問がなされたが、その応答は論理的かつ適切であった。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。